

事務事業名 紫プロジェクト補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1432

施策：	11	地域に活力をもたらす商工業の振興	財務コード	01060102-12-389
基本事業：	01	中小企業の経営支援	担当部	環境経済部
基本事業の成果指標	廃業事業所数 商工会の会員数		担当課	商工観光課
			担当係	商工観光担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成22年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
商工会・事業所・市民			筑紫野市商工会に対し、以下の事業費を補助する。 むらさき啓発事業 紫の特産品及び紫プロジェクトのPRとして市内イベントへの出店、むらさきマルシェの実施、視察受入れ、報道機関を通しての周知など。 特産品等開発研究事業 「むらさき」をキーワードとした特産品の研究開発、紫色の食品や衣料品を製作。先進地視察。 紫草の復活栽培と広報活動事業 紫草の栽培、染め会の実施、啓発普及活動。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
筑紫野市の「むらさき」をキーワードとしたまちづくりを行う商工会の取り組みをとおして地域の活性化を図る。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
紫にちなんだ商品を開発したのべ数		件	104	108	105	109			80	
紫をキーワードとしたまちづくりを実感している市民の割合		%	27.1	27.1	30	30				
5. コスト										
事業費		計	千円	1,700	1,700	1,700	1,700			
		国	千円			0	0			
		県	千円			0	0			
		地方債	千円			0	0			
		その他 一般	千円	1,700	1,700	1,700	1,700			
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費		千円	782	802	838					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,482	2,502	2,538	1,700				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和4年度は、観光庁補助金「地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品の創出事業」に採択されたことにより、市のイメージアップとなる商品開発を行った。商工会会員事業所17店舗で「紫をテーマにした看板商品」を決定し、JR二日市駅近くの広場や西鉄桜台駅前販売会を実施している。 令和5年度は、「むらさき」をキーワードとした商品を15商品追加し、累計で104商品となっている。 令和6年度は、商工会が「天拝いこいの館」をちくしのアンテナショップ「つくしちゃんカフェ」としてリニューアルオープンさせ、紫プロジェクトの一環としてカフェにて新商品「ギモーヴ」を開発するなど、「むらさき」をキーワードとした商品を4商品追加し、累計で108商品となっている。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	「むらさき」にちなんだ商品がこれまで100品目以上あるが、筑紫野市ならではの目玉となる商品が乏しい印象を受けることから、積極的な商品開発を促していく。 また、その販売についても藤まつりなどのイベント時のみならず、各店舗での常時販売やインターネット上での販売について検討するなど、積極的かつ年間を通して継続的にPRを行っていかねばならない。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
「むらさき」をキーワードとした商品はわずかであるが、引き続き民間事業者で新たに開発されており、さらに紫プロジェクトの趣意に賛同した商工会青年部がマヨネーズやドレッシングを新たに開発し、今後生産行程などの検討している。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
古くから筑紫野には紫草という、現在では絶滅危惧種に指定されている草が繁茂していた。その根を紫色の染料として朝廷への税の代わりに納め、冠位十二階の最高位を表す紫色の染料に使われたという歴史がある。商工会は「紫プロジェクト」と称し、紫をキーワードとして様々なまちづくり事業を展開している。										